

様式第1号

## 虫尾・佐木谷上集落「集落営農ビジョン」規模拡大型

作成日：令和 3年 1月20日

修正日：       年    月    日

|  |             |                   |            |
|--|-------------|-------------------|------------|
| 市町村名   | 日南町         | 組織名               | 虫尾集落営農組合   |
| 1 地区の範囲<br>日南町 虫尾地区及び佐木谷上地区  |             |                   |            |
| 2 地区の概要  |             |                   |            |
| 水田面積   | 14.943ha    | 主な水田栽培作目          | 水稻 農家数 16戸 |
| 認定農業者数   | 1経営体        | 人・農地プランの中心となる経営体数 | 1経営体       |
| 3 組織の概要  |             |                   |            |
| 設立時期（規約等の制定日）  | 平成29年12月 1日 | 構成農家数             | 8戸         |
| 組織形態（該当形態に○を記入）    ○共同利用型    ○作業受託型    ・協業経営型                                |             |                   |            |
| 4 集積（経営、機械の共同利用及び作業受託）の目標  |             |                   |            |
| 【項目】   |             | 【現状】              | 【目標】令和5年度  |
| 農地の集積  | 集積面積 A      | 9.854ha           | 10.345ha   |
|  | 対象水田面積 B    | 14.943ha          | 14.943ha   |
|  | 集積率 A/B     | 65.9%             | 69.2%      |
|  | 地区外集積面積 C   | 0ha               | 0ha        |
|  | 経営面積 A+C    | 9.854ha           | 10.345ha   |
| 世代交代への取組   |             | -                 | -          |
| 新規就農者の活動参画   |             | -                 | -          |
| 5 添付資料<br>集積状況一覧（別表1、2）、機械の利用計画（別紙）、規約の写し及び計画の根拠が分かる資料（総会資料又はビジョン作成話合いの議事録等） |             |                   |            |
| 注1）目標年度は、事業実施最終年度の翌年度から3年以内のいずれかの年度で設定すること。                                  |             |                   |            |
| 注2）経営面積等の現状及び目標は、集積状況一覧（別表1、2）により作成すること。                                     |             |                   |            |

## I 集落営農に対する基本方針

### 【集落農業の現状と課題及び課題を解決するための対応方針】

#### 1 担い手の明確化及び水田利用集積目標

虫尾集落は各農家が、個別営農に取り組んでいたが、高齢化・後継者不足の課題に直面し、集落内で今後の営農について検討した中で、「地域の農地をどのように保全していくか」、「近年の米価低迷を受けて、新規で農業機械の導入、更新は極めて困難な状況であり、将来への営農継続を断念される農家も出てきている」といった課題が明確となった。

そこで、平成29年に集落営農組織を設立し、面積の集積・機械の共同利用を実施し、目標を達成しながら生産活動を推進してきた。

しかし、当時の構成農家数よりも構成員は増えてはいるものの、高齢化・後継者不足の解消には至っておらず、今後も課題解決を目指した活動が必要となる。

そのような状況の中で、当組織の役割が集落の営農維持において重要な位置づけとなっており、将来にわたり地域の中心的担い手として、集落内の農地を集積・作業受託面積の拡大を図り、集落内の農地守っていく。

#### 2 水田の作付計画（水稲以外の作物を含む）、活用方針・具体策

主体の水稲は、コシヒカリを中心に売れるコメづくりを目指す。

今年、日野郡産米コンテストに出品し、奨励賞を受賞したので、今後もコンテストに出品し、当地区のおいしいコメの売り込みに努める。

作付計画は、面積拡大に伴い収穫適期の作業が難しくなっているため、星空舞の作付けを検討する。転作については、効率の悪い圃場が多くそばの栽培を主体とするが、水稲作付が可能な圃場があるか再度検討する。

#### 3 農業用機械施設の効率利用

現在までに、農業生産コストの軽減を図るため、田植機・コンバインを導入し、作業の効率化が図れ、作業時間の短縮に伴い規模拡大につながった。

今後の課題は春の準備作業であり、現在組織で保有しているトラクターはなく、構成員が所有しているトラクター(23 ps)2台で耕運作業を行っているが、規模拡大に伴い現状体制では作業適期に間に合わず、これ以上の規模拡大ができない状況である。

そのため、この度新たに45 psのトラクターを組織で導入し、作業の効率化を図り春作業の時間短縮・計画的な作業により、農業生産総合労働時間数の削減を目指し、さらなる規模拡大を行っていく。

#### 4 世代交代、組織の後継者育成に関する方針

当面は現構成員で運営をしながら、将来的には後継者の育成に努めるとともに、地域内での雇用を確保するなど、新たな担い手の確保、育成に努める。

#### 5 経営多角化の方針・具体策

## II 農業用機械施設の整備方針

### 1 機械施設の整備計画

| 機械施設名   | 規格能力   | 台数等 | 金額 (円)    | 導入予定年<br>月 | 本事業による<br>導入機械に○ |
|---------|--------|-----|-----------|------------|------------------|
| トラクター   | 45 p s | 1台  | 7,230,300 | R3.3       | ○                |
| ロータリー   | 2 m    | 1台  | 1,067,000 | R3.3       | ○                |
| ウイングハロー | 3.6 m  | 1台  | 1,266,100 | R3.3       | ○                |
| 合計      |        |     | 9,563,400 |            |                  |